

自分の生活を見つめ、生き生きと活動できる子どもの育成 —— 歯・口の健康づくりをとおして ——

栃木県栃木市立家中小学校

1 1 学級 2 4 4 名

1 研究の目標

家庭や関係諸機関と連携し、「歯・口の健康づくり」のための効果的な指導の在り方を探り、自分の生活を見つめ、正しい知識をもって健康づくりに意欲的に取り組む子どもの育成を図る。

2 実施した主な活動

(1) 授業における研究

① 指導計画の作成

歯・口の健康づくりに関連した教科領域を洗い出し、各学年の発達段階に応じた指導計画を作成した。

② 指導法の工夫

歯と口の健康に関する授業を行うに当たって、児童が自ら課題を発見し、課題解決の方法を考え、実践化が図れるよう、内容や指導法について研究した。導入段階の工夫、体験活動や話し合い活動の充実、実践化に向けての工夫などについて検討し、実践、改善。

③ 専門家と連携した授業の実践

学校歯科医・歯科衛生士・栄養教諭にゲストティーチャーとして授業に参加していただいたり、養護教諭と TT を組んで授業を行うことで、専門的な立場から助言を受けたり、効果的な資料の提供を受けたりした。

<歯科医師・歯科衛生士によるブラッシング指導>



「親子歯みがき教室」(1年)

<養護教諭による説明>



「どうしてむしばになるのかな」(1年)

(2) 日常指導の研究

① 歯みがき指導の充実

給食後の歯みがきは、音楽に合わせて全校一斉で行っている。「歯みがきの順序」と「重点ポイント」を作成して掲示し、磨き残しがないように意識しながら歯みがきができるようにした。また、CO・GO と診断された児童への対応として、養護教諭による個別指導を行った。

② 健康によい生活習慣の定着のための工夫

ア けんこうポイントカードの活用

週末、家庭においても歯や口の健康を意識して生活し実践できるよう、がんばりカードを作成した。ポイントがたまるとシールがもらえ、さらにポイントがたまると「けんこう博士認定書」がもらえるようにして意欲を高めた。

イ 歯っぴー日記

毎日の生活の中で健康を意識したり、自分の生活をふり返ったりするために、「歯っぴー日記」を作成した。健康つくりのために実践したことや考えたこと、調べたことを書いて掲示した。

(3) 児童主体の活動についての研究

① 児童の主体的な活動の場の設定

ア 委員会活動

- ・ 計画委員会を中心に児童全員で、「歯みがきカルタ」「歯みがきすごろく」を作成した。手作りのカルタやすごろくを使って、児童集会を行い、みんなで楽しみながら歯と口の健康について学んだ。
- ・ 歯ブラシの大きさや毛先の状態のチェックを保健委員が行っている。また、昇降口に保健委員の児童が作成した、歯や口に関する新聞を掲示している。



<歯みがき集会>

② 学習環境の整備

児童が、主体的に健康づくりについて学習できる環境として、「からだ情報室」を設置した。健康に関する資料を集め、資料に直接触れたり観察したりできるように工夫した。また、学習内容に関連付けて、児童が主体的に作成した資料や児童が日常生活の中で関心をもった新聞記事などを掲示し、児童同士の学び合いや情報交換の場にもなるようにした。

<歯や口の衛生商品>



<歯の模型実物等>



(4) 家庭・関係諸機関との連携

① 実態調査と児童・保護者への啓発

児童の実態・指導後の児童の変容を把握し、指導に生かすために、児童・保護者・本校卒業生を含む中学1年生にアンケート調査を行った。また、保護者への啓発として、研究啓発紙「歯っぴーいえなか」を発行した。

② 専門家との連携

- ア 学校歯科医・歯科衛生士・栄養教諭・養護教諭の授業への参加
- イ 学校歯科医・歯科衛生士によるブラッシング指導
- ウ 歯の衛生週間時の、学校歯科医による児童への講話
- エ 就学時健康診断時の学校歯科医による保護者への講話
- オ 栄養教諭による保護者への講話

③ 家庭との連携

- ア 「わが家の歯っぴー情報」

歯や口の健康に関する家庭での取組みの情報を発信していただき、「歯っぴーいえなか」に掲載した。

- イ 親子歯みがき調べ・歯みがきカレンダー

- ウ 歯みがきカルタ・歯みがきすごろくの作成（児童との共同制作）

④ PTAとの連携

- ア 学校保健委員会

学校歯科医、歯科衛生士、保護者、児童、教職員による学校保健委員会を開催した。平成21年度は、保護者、教職員を対象に学校歯科医による「生活習慣病予防を目指した歯・口の健康づくり」についての講話と歯科衛生士の指導によるブラッシング指導、フロッシング体験活動を行った。平成22年度は、児童保健委員会による「歯に関する学習（掲示物）」の発表と学校歯科医による「生活習慣病予防を目指した歯・口の健康づくり」についての講話を行った。

<ブラッシング指導の様子>



<児童保健委員会による発表>



- イ PTA教養部による「歯に良いおやつ作り教室」「歯に良いおかず作り教室」

⑤ 地域との連携

- ア 交流学习

低学年の生活科や、中・高学年の総合的な学習で地域の施設と交流学习を行っている。交流を通して、歯と口の健康についてインタビューしたり、歯と口の学習の成果を伝えたりした。

- イ 歯みがきカルタ・すごろくの配布

地域の方の歯や口の健康についての関心を高めるために、児童会を中心に作成した歯みがきカルタとすごろくを、地域の小・中学校や幼稚園・保育園、特別養護老人ホームや知的障害者更生施設、公民館等に配布した。

ウ キャリア教育

6年の総合的な学習の時間「働く人に学ぼう」で、キャリア教育の視点から授業を行った。児童は地域のゲストティーチャーの話聞き、仕事の内容やその大切さ、苦労について学んだ。歯科衛生士の話聞くことで、歯と口の健康に関わる仕事の大切さを学んだ。



＜歯科衛生士にインタビューする児童＞

エ 生活科校外学習

2年生活科「わくわくどきどきまちたんけん」で、3グループの児童（12名）が、学校歯科医の医院を訪問させていただいた。児童は、歯科医院の建物の中や治療に使う道具を見せていただいたり、歯科衛生士さんに質問したりして、歯科医院の仕事について学んだ。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 専門家と連携して授業を行うことで、授業に対する意欲が高まった。また、専門的な立場から説明やアドバイスを受けることにより、学習内容を正しく理解することができた。
- ② 歯と口の健康づくりの学習の中で、学習課題に対して、図書資料やインターネットを活用して調べたり、友達や身近な人に聞いたり、友達と話し合ったりする活動を重ねてきた。その結果、情報を活用する力や話し合う力がついてきた。また、調べて分かったことを身近な人に伝えたり自分の考えをまとめたりする学習は、表現力の育成にもつながった。
- ③ 専門家（学校歯科医、歯科衛生士、栄養教諭、養護教諭）と連携した授業や活動は、児童の学習への関心を高めることや、知識の習得や技能の向上に有効だった。また、年間指導計画作りや授業について、専門家の立場から指導を受けたり、授業や活動のねらいについて話し合ったりして共通理解をすることで、教員の資質の向上につながった。
- ④ 研究啓発紙「歯っぴーいえなか」や学校だより等での啓発、学校保健委員会や学校歯科医による講話、PTA活動としての歯の健康を考えた料理教室、保護者による歯と口の健康に関する本の読み聞かせ、保護者の授業への参加等により、児童や家庭の健康への関心が高まった。その結果として、むし歯の治療率や定期健診受診率が上がってきた。
- ⑤ 手作りカルタやすごろくを地域に配布したり、地域の施設との交流学习で研究について学習したことを伝えたりすることで、地域の健康づくりへの啓発につながった。

(2) 課題

健康づくりの意識と望ましい生活習慣は、児童のこれからの生活の中でも、もち続けなければならない生涯の課題であるため、今後も様々な学習を通して、自分の健康状態を見つめさせ、自分の健康は自分でつくっていくという意識をもたせていくための方策を探っていく。また、今後も新たな視点で、学校と家庭とのよりよい連携の仕方を工夫していく。